

タイムテーブル

時間	授業内容
0:00-0:16	<p>イントロダクションー私たちはなぜ文章を書くのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 日本の読書感想文は、アメリカの Book Report と比べて何が難しいのか？ ➔ 「だれのため？」「何のため？」ここが分からない。 ➔ おとなが書く文章は、目的と相手をはっきりした文章。 ➔ 究極的には、幸せに生き延びるために人は文章を書く。 ➔ 足利事件で冤罪被害を受けた菅家さんの獄中での手紙を紹介する。 ➔ この文章は、目的を果たしたもっともよい文章の一つ。
0:16-0:28	<p>課題1: ダメ・メールのどこがダメか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 文章には必ず、相手と目的がある。目的をうまく果たせる文章が「よい文章」 ➔ そのための最も基本的なポイントは「他人の立場に立つこと」 ➔ 大学教員にインタビューのアポイントメントをとるための、ダメ・メールの例を生徒に読ませる。 (1分半) ➔ 生徒が気付いた点を順番に回答。「インタビューの希望日時が分からない」「趣旨が分からない」などの答えが出る。
0:28-1:21	<p>課題2: 描写してそれを伝達するゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 生徒をペアにし、教室の右・左の2グループに分けて、移動させる。 ➔ 各グループにそれぞれ課題の封筒を配る。封筒を開封させる。 ➔ 課題の絵を見て、1枚目の白紙に絵の内容の説明文を書かせる。(25分) ➔ 絵を封筒にしまい、説明文をパートナーと交換する。説明文を読んで2枚目の白紙に絵を復元する。(15分) ➔ 元の絵と復元した絵をパートナーと一緒に比べ合う。お互いの説明文をどう解釈したのか、一文一文確認する。
1:21-1:25	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➔ 課題2で大事なことは、思わぬ誤解が生まれることを相手から学んだこと。 ➔ ポイント1: 相手のことをいつも考えながら文章を書く。どんな文章でも、どういう順番で、どう書いたら、相手に誤解なく伝わるのか、考えながら書く。 ➔ ポイント2: 今はパートナーに指摘してもらったが、ゆくゆくは自分の書いた文章にセルフ・ツッコミできるように。2つできれば、文章の達人。 ➔ 課題の絵の解説。

